

郭璞爾雅注、如淳漢書注、皆同、蓋諸家析言之、趙岐統言之也、

〔段注說文解字〕十三上

虹、蝮、蝮也、

蝮、蝮也、

狀、侶、虫、

它、各、本、作、蟲、

今、正、虫、者、

从、虫、工、聲、

戶、九、

部、明堂月令曰、虹始見、季春

〔段注說文解字〕十一下

〔釋名〕天

虹、攻、也、純、陽、攻、陰、氣、也、

又、曰、蝮、蝮、其、見、每、於、日、在、西、而、見、於、東、

掇、飲、東、方、之、水、氣、也、

見、於、西

方、曰、升、朝、日、始、升、而、出、見、也、

又、曰、美、人、陰、陽、不、和、婚、姻、錯、亂、淫、風、流、行、男、美、於、女、女、美、於、男、恒、相、奔、隨

之、時、則、此、氣、盛、故、以、盛、時、名、之、也、

電、齧、也、其、體、斷、絕、見、於、非、時、此、災、氣、也、傷、害、於、物、如、有、所、食、齧、也、

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

虹ををにじ、霓をめにじといふ事あり、博聞錄には、虹霓、但是雨中日影也と見えたり、又霏雪錄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ

〔釋名〕天

〔類聚名義抄〕十

〔下學集〕上

〔日本釋名〕上

〔東雅〕天

〔倭訓栞〕前

葉集にのじといふも皆通音也、今も東國の俗はのじといふとぞ、靈異記に電をよめり、埃囊抄に

は、蟾蜍の吐し氣也といふ、備中の岡氏か、りしを、まのあたり見しと話れり、虹霓の字、虫に从ふ